

豊中市都市農業振興基本計画（素案概要） 令和2年（2020年）3月

○計画期間：令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度） ※経済・社会情勢の変化や施策の進捗状況などにより、中間年である5年を目途に見直し

1. 豊中農業の現状と課題

1 豊中農業の現状(まとめ)

(1) 農家戸数と農業就業人口

- ・農家戸数は、過去20年間で4割近く減少。平成27年現在275戸。
- ・販売農家は76戸（全体の28％）であり、全体の7割が自給的農家。
- ・農業就業者は、過去20年間で8割以上減少し、平成27年現在243人。このうち基幹的農業従事者は85人で、その65％が65歳以上

(2) 農業生産物と出荷先

- ・平成27年に農産物を販売した農家50戸の販売第1位の農産物は、「水稻」が32戸（64％）と最も多く、次いで「花き・花木」7戸（14％）、「露地野菜」5戸（10％）など。
- ・出荷先は、「農協」（29件）が最も多く、次いで「朝市」（21件）、「市のイベント」（17件）など。

(3) 農地の状況

- ・市内農地面積は、平成4年度から平成30年度までの間に約1/3に減少し、61ha。
- ・そのうち、生産緑地地区に指定されている農地は、同期間で約45％減の約37haに減少。

(4) 後継者

- ・3割近くの農家は後継者がなく、75％の農家で農業継承の問題や不安を有する。

※(1)～(2)の出典は農林業センサス、(3)は豊中市農地台帳、(4)の出典は平成30年度市アンケート調査結果

ただし、農林業センサスは、「農家」を経営耕地面積が10a以上又は農産物販売金額が15万円以上の世帯と定義。経営耕地面積要件のない豊中市農地台帳では、上記(1)数値のうち農家戸数は平成30年で535戸。

2 豊中農業の課題

- 課題1：営農継続に向けた支援と多様な担い手の確保
- 課題2：豊中農業の強みを生かした農業経営の安定
- 課題3：農地の積極的な保全・活用
- 課題4：農業者と事業者・市民との情報共有（ミスマッチの解消）
- 課題5：市民に対する豊中農業への一層の理解（認知）
- 課題6：地域コミュニティと連動した農地の活用
- 課題7：関係者間の連携体制やコーディネート機能の強化

2. 豊中農業の将来像と基本的方向

1 豊中農業の将来像

「次代につなぎ、暮らしに寄りそう“豊中農業”」

2 豊中農業の基本的方向

将来像を踏まえ、豊中農業が安定した経営を営み、また、市民等から十分に理解され、応援される農業を実現するための基本的方向を以下の4つとします。

- (1) 生産者が農業をつづけられる環境づくり ※豊中農業の課題①・②・④に対応
- (2) 多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・活用 ※同③・⑥
- (3) 豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現 ※同①・④・⑤・⑥
- (4) 農地の積極的保全・活用に向けた体制づくり ※同⑦

3. 施策体系

基本的方向に沿って具体的に実施する施策一覧を以下に示します。また、5つのチャレンジプロジェクトを展開し、まずは、生産者をはじめとする関係者の意向を把握し、モデルプロジェクトの創出をめざします。

基本的方向1：生産者が農業を続けられる環境づくり

1-1 営農継続に向けた支援と多様な担い手の確保	①農地保全に向けた農地所有者への情報提供	拡充
	②農地利用の最適化推進	継続
	③栽培技術の向上に向けた取組支援	継続
	④「(仮称)援農隊」による農地の保全・活用	新規 (チャレンジ①)
1-2 豊中農業の強みを生かした農業経営の安定	①市内事業者による豊中市産農産物の利活用	新規 (チャレンジ②)
	②農業経営者協議会研究部会等との連携の推進	継続
	③農業施設等の導入支援	継続
	④農業共済の加入支援	継続
	⑤転作作物に対する支援	継続

基本的方向2：多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・活用

2-1 多面的機能を発揮した取組の推進	①高齢者社会福祉施設における農作業プログラムの推進	新規 (チャレンジ③)
	②農地の有効活用・景観形成及び市民が自然とふれあう機会の創出	継続
	③多面的機能の維持・向上	継続
	④災害時の防災機能の向上	新規
2-2 生産緑地の積極的な保全・活用	①農地バトロール事業による農地保全の推進	継続
	②生産緑地制度の活用	継続
	③特定生産緑地の指定	継続
	④都市農地の賃借円滑化	新規

基本的方向3：豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現

3-1 市民に対する豊中農業への一層の理解(認知)	①豊中農業・農地に関する市民への啓発	継続
	②豊中市産農産物の購入機会の拡大	新規 (チャレンジ④)
	③学校給食での豊中市産農産物の利用促進	継続
	④新鮮で安全な農産物の提供と地産地消の推進	継続
	⑤農業祭の開催	継続
	⑥とよびー(堆肥)を活用した取組の推進	継続
3-2 地域コミュニティと連動した農地の活用	①市民農園の整備・運営支援	拡充
	②田植え・稲刈り体験の推進	新規
	③市民団体と連携した農地の保全・活用	新規 (チャレンジ⑤)

*「基本的方向4 農地の積極的保全・活用に向けた体制づくり」は、各施策を推進する体制づくりとして、計画内では、「計画の推進」に記載しています。

4. 数値目標

			現状値 （令和元年度 （2019年度））	目標値 （令和6年度 （2024年度））
1	チャレンジプロジェクト①関連	（仮称）援農隊への参加者数	-	10人
2	チャレンジプロジェクト②関連	豊中市農産物の利活用により製造された商品	-	2種類
3	チャレンジプロジェクト③関連	農作業をプログラムに取り入れた高齢者社会福祉施設等の数	-	2施設
4	チャレンジプロジェクト④関連	既存施設等を活用した新たな販売機会の創出	-	2か所
		定期開催している朝市・直売所	6か所	7か所
5	チャレンジプロジェクト⑤関連	マッチングにより農地を活用した市民団体等	-	2団体
6	その他	市民農園	21か所	26か所
7	その他	体験型農園	-	3か所
8	その他	生産緑地面積	37ha	40ha

5. 計画の推進

1 計画の推進体制

計画の推進にあたっては、現状値や数値目標の達成状況を把握・評価し、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもとに進めます。

なお、計画を効果的・効率的に推進するためには、行政だけでなく、農業者、市民、関係団体などが一体となった体制づくりが重要です。

特にチャレンジプロジェクトを推進するためには、「農地の所有者や耕作者」、「耕作したい農業者」、「農業関係事業を運営したい事業者や団体・市民」、「農地を利用したい市民」などをうまくつなげる必要があります。

2 計画の進行管理

「1 計画の推進体制」で示したように、審議会による進行管理を行います。なお、計画の進行管理は、各施策の進捗状況だけでなく、社会経済情勢の変化、国・府の政策動向などの対応とともに検証して行います。

さらに、中間年度である令和6年度(2024年度)には、農業者や関係機関等の意見なども広く踏まえながら、必要に応じた見直し・検討を行います。

チャレンジプロジェクト

★基本的方向1:生産者が農業を続けられる環境づくり

チャレンジ① 「(仮称)援農隊」による農地の保全・活用

キーワード ・特徴	営農支援	市民団体	ボランティア	地域交流	健康
--------------	------	------	--------	------	----

○目的・取組展開

- ・営農継続が困難な農地(農業者)について、市民農園利用者など生産意欲が高い(農作業をもっと行いたい)市民等がサポート(援農)することで、農地の維持・活用を図る。
- ・サポートの種類は、①農作業の一部を手伝う、②農作業の一部やすべての委託を受ける、③農地を借りうける、などが考えられる。
- ・さらには、「援農隊」が作業を受託し、事業を拡大することで、コミュニティの形成、特産品化、「地域還元」の視点でのプロジェクト化が期待できる。

チャレンジ② 市内事業者による豊中市産農産物の利活用

キーワード ・特徴	農業者	食品製造業	飲食店等	地産地消	特産品
--------------	-----	-------	------	------	-----

○目的・取組展開

- ・食品製造業や飲食業などの事業者による豊中市産農産物の利活用に向けた取組を行う。
- ・特に、商工会議所等、関係機関との情報共有を密に行うなど、シーズ、ニーズの把握に努める。
- ・上記を踏まえて、まずは、農業者や事業者に対して、お互いの状況や情報を知ってもらう取組を進める。

★基本的方向2:多面的な機能を発揮した、農地の積極的な保全・活用

チャレンジ③ 高齢者社会福祉施設における農作業プログラムの推進

キーワード ・特徴	社会福祉法人等	高齢者等	介護予防
--------------	---------	------	------

○目的・取組展開

- ・デイサービスなどを行う社会福祉法人等では、利用者の参加意欲が高まるプログラムづくりが重要であり、その1つとして農作業があげられる。農作業は、高齢者の生きがいや介護予防、リハビリとして、今後も注目がさらに高まることが予想される。
- ・デイサービスなどを行う社会福祉法人や介護事業者、農業者と連携し、農作業を取り入れたプログラム作りを促す。
- ・将来的には、他の社会福祉法人や農地での利用を想定する。

★基本的方向3:豊中の「農や食」を通じた、市民の豊かな暮らしの実現

チャレンジ④ 既存施設やサービスを活用した地産地消の推進

キーワード ・特徴	農業者	民間事業者	販路づくり	地域交流	高齢者等
--------------	-----	-------	-------	------	------

○目的・取組展開

- ・市内の農業者は、自家栽培農家(販売目的ではない農家)が多い状況であり、販売へのハードルとして、出荷手間(袋詰めや流通負担)が想定される。
- ・市内の農業者が栽培した農産物について、既存施設やサービスと連携し販売機会の拡大を目指す。
- ・既存施設やサービスを展開する事業者等のニーズや実現可能性を踏まえて、農業者とのマッチングを行い、まずは、モデルプロジェクトとして試行的に実施する。

チャレンジ⑤ 市民団体と連携した農地の保全・活用

キーワード ・特徴	市民団体	子ども	食育	地域交流
--------------	------	-----	----	------

○目的・取組展開

- ・市内には、数多くの市民団体があり、あらゆる分野で熱心な活動が行われている。
- ・近年は、農や食に関して熱心な市民団体もあり、地元農産物、農地を活用したい意向を持つ市民団体が存在する。
- ・営農継続が困難な農地(農業者)について、上記のような市民団体が連携することで、農地の維持・活用を図るとともに、市民団体の多様な事業展開に寄与する。
- ・市民団体のニーズを踏まえて、農業者とのマッチングを行い、まずは、モデルプロジェクトとして試行的に実施する。
※農業者の理解、Win-Winの関係づくり、採算性などが重要となる。
- ・将来的には、農地で収益が上がる仕組み(例えば、近隣住民向けにさつまいも掘り事業を行う、農業祭で販売、直売や加工事業など)など、継続・発展した取組をめざす。